



わたしたちの身の回りにあふれるプラスチック。便利なものですが、実はプラスチックごみの9割がリサイクルされず海にまであふれだしています。

プラスチックごみの行方

プラスチックごみのほとんどが中国へ輸出され、洋服などの繊維にリサイクルされていますが、質の問題や洗浄後の汚水が社会問題となっています。

現在、中国が輸入を規制したため、日本だけでなく世界各国でプラスチックごみの処理が深刻な問題となっています。



ポイ捨てや風で散乱したプラスチックのごみ

川や海へ流れ出て汚染する。また、その一部がマイクロプラスチックとなる。

紫外線

マイクロプラスチックとは
小さなプラスチックのかげら。大きさは5ミリメートル以下。製品の原料や製品に配合されているものと、海などを漂ううちに、紫外線や波の力によって細かく分解されたものがある。きれいに見える海にも、実は大量に漂っている。

マイクロプラスチックをエサと間違えて食べてしまう魚たちもいる。

マイクロプラスチック以外にも、プラスチック袋や紐なども川や海に流れ出てしまうと、生き物の体に絡まってしまいます。

マイクロプラスチックの問題点・影響

マイクロプラスチックは、そこで生きる魚や鳥などにとって、餌と間違えやすいものです。マイクロプラスチック自体は魚や鳥などが食べても排出されますが、プラスチックに含まれる添加物や海に漂う有害物質を吸着したものを食べてしまうと、体の中に有害物質が溜まってしまふ恐れがあります。そして、その魚などをわたしたちが口にすることもありません。

間違って食べてしまふマイクロプラスチックだけでなく、プラスチック袋や紐などに絡まって身動きが取れなくなる海洋哺乳類などもあります。いつの間にか地球にあふれているプラスチックごみが、わたしたちや地球環境に影響を及ぼしています。

脱プラへ 企業の取り組み

世界各国でおなじみのコーヒーチーンやファストフード企業が相次いで使い捨てのプラスチック製ストローを廃止する方針を表明し、飲料メーカーでも「2030年までに販売した自社製品を100%回収リサイクルする」目標を発表しました。

国内化粧品メーカーは欧米の企業と共に、化粧品やシャンプーで環境への影響が小さい容器を検討する活動を始め、日本で普及している詰め替えパックの使用を促す方針です。また、プラスチックの使用量を減らすため、詰め替えパックに直接ポンプを挿して使えるホルダーの販売を始める国内企業もあります。

脱プラへ

動き出した世界

2018年6月、G7首脳会議で、プラスチック削減・再利用などの数値目標を定めた「海洋プラスチック憲章」にカナダ・欧州各国が署名しました。

国連環境計画によると世界60ヶ国以上が使い捨てプラスチック製品の規制を導入。欧州委員会はプラスチック製ストローや食器の販売禁止、食品容器への課金などを提案し、洗顔料や歯磨き粉に使われてきたマイクロプラスチックの一種、マイクロビーズを制限している国や地域もあります。



幸せな未来のために

2050年には魚の量より多くなると予測されているプラスチックごみ。1人当たりの使い捨てプラスチックごみの発生量が米国内に次いで世界2位の日本。その現状を受け止め、わたしたちが行うべきこと。ごみになる物を減らす(リデュース/削減)、繰り返し使える物を利用する(リユース/再利用)、ごみは分別して資源にする(リサイクル/資源化)、この順番を心がけ、さらにその先の買わない・断る(リフューズ/拒絶)選択をすることも必要です。

プラスチックと生きるということ

プラスチックはわたしたちの生活を便利にしてくれるものですが、自然界に出てマイクロプラスチックとなってしまうと回収がほぼ不可能です。完全にプラスチックを使わない生活ができないのなら、せめて自然界に出さないという強い気持ちで、プラスチックと生きていく覚悟を持ちたいですね。



わたしたちにできること!
~プラスチックフリーな生活~

- ・マイバッグを持つ。
- ・マイボトルを持つ。
- ・プラスチックで包装されていないものを買う。
- ・リサイクルのために分別しよう。
- ・ポイ捨てしない。

